

CDP から環境対応の最高評価を3分野で獲得 「Supplier Engagement Leader 2019」に選定

ナブテスコ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：寺本克弘）は、CDPにより、「サプライヤー・エンゲージメント評価」において最高評価を獲得し、「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー・ボード」に選定されました。これにより、「気候変動」「水分野」を含め3分野での最高評価獲得となります。

CDPは、運用資産総額87兆米ドルに達する世界の650の機関投資家を代表し、企業の環境に関する取り組みの情報を収集、評価している国際的なNGOです。「サプライヤー・エンゲージメント評価」は、CDPが企業のサプライチェーン全体での気候変動対応について評価したものです。世界の5,500社を超える企業が評価され、当社を含む128社がサプライヤー・エンゲージメント・リーダーに選定されました。

ナブテスコは、2016年12月に2030年と2050年までのCO₂排出削減の長期目標を策定しました。この目標は、「パリ協定」の「2℃目標」達成に整合するものとして、「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ」より承認されています。徹底した省エネ活動をグローバルに展開し、高効率な設備の導入・更新、最新の環境技術を採用した工場建屋の新築・建て替え等を通じて、CO₂削減にグループ一丸となって取り組んでいます。

今後もナブテスコは、持続可能な社会の実現に向けて、環境・社会の諸課題の解決に取り組む、さまざまな活動を推進してまいります。

以上

